

2019-2021年度 国際理事候補者 プロフィール



氏 名 L 川島 正行 (かわしままさゆき)

所 属 333-E地区 4R 1Z 土浦北ライオンズクラブ

生年月日 1960年12月 1日 (57歳)

現 住 所 〒315-0054 茨城県かすみがうら市稲吉3-7-60
TEL 029-831-8052

現 職 株式会社 いっしん 代表取締役
株式会社 かわしまコーポレーション 代表取締役
株式会社 ケアスター 代表取締役
株式会社 双心 会長

現 役 職 NPO茨城グループホーム協会 代表理事
社会福祉法人 一行会 理事長

家 族 妻 由美子 母 かつよ 長男 正成

趣 味 旅行、読書

最終学歴 1979年 工学院大学高等学校卒業

職 歴 1979年 川島工務店入社 2004年 株式会社ケアスター設立
1982年 川島建設株式会社設立 2012年 株式会社双心 会長
(現 かわしまコーポレーション)
1990年 株式会社いっしん設立

【賞罰】

障がい者スポーツの振興 (財団法人日本障害スポーツ協会より)
県立高校の音楽教育また被災地域における教育活動 (茨城県教育委員会教育長より)
防衛基盤の育成・陸上自衛隊の充実発展 (陸上自衛隊陸将より)
地域福祉の向上に貢献 (かすみがうら市長より)
レスリング事業運営に貢献 (茨城県レスリング協会より)

【ライオン歴】

1990年	土浦北ライオンズクラブ入会	2010年～11年	4R 1Z ゾーン・チェアパーソン
1993年～94年	クラブ会計	2012年～15年	地区GMTコーディネーター
2002年～03年	第25代会長	2015年～16年	333-E地区 第2副地区ガバナー
2006年～07年	4R地区委員 (LCIF・薬物乱用防止・青少年健全育成・地区四献)	2016年～17年	333-E地区 第1副地区ガバナー
2007年～08年	地区委員長 (薬物乱用防止・社会福祉・環境保全・地区四献)	2016年 7月	セカンド センチュリー アンバサダーとなる
		2017年～18年	333-E地区 地区ガバナー

【ライオンズ関連研修】

ALLI 上級ライオンズリーダーシップ研究会(Bangkok)修了
FDI ライオンズ講師育成研究会(Nagoya)修了

【ライオンズ関連受賞歴】

メルビン・ジョーンズ・フェロー 54回
メンバーシップ アドバンスメントキー賞
LCIF リードギフト \$ 100,000 誓約・実施済
国際会長賞 1回
国際会長感謝状 5回
地区ガバナーアワード 8回
複合地区議長アワード 1回
LCIF国際財団理事長アワード 4回

【大会参加歴】

OSEAL 9回
(台湾・フィリピン・福岡・シンガポール・仁川・バンコク等)
国際大会 8回
(香港・大阪・釜山・ハンブルグ・ホノルル等)

所 信 表 明

< 次 代 の 創 造 >

ライオンズクラブ国際協会 333-E 地区

2017-2018 年度 地区ガバナー

L 川島 正行 (土浦北 LC 所属)

ここに 333-E 地区そして 333 複合地区を代表し 2019-2021 年度 国際理事へ立候補をさせて頂きたくお願い申し上げ所信を述べさせていただきます。

私の所属する 333-E 地区は東京ライオンズクラブにより日立ライオンズクラブがチャーターされた 1962 年より歴史の 1 ページが拓かれ既に 56 年を迎え、今初めて国際理事へ挑戦させて頂き、ライオンズクラブ国際協会と共に次なる時代へ歩んで行きたいと思えます。

いま世界にそしてライオンズクラブ会員にも価値観の多様性が起こっています。これからも会員にたくさんの事を伝えて行く output をするには、永遠の input をして行かなければなりません。

たくさんの事が想像出来なければ創造出来ない。今まで通りの努力だけでは何も変わりません。新しい目を持ち沢山の想像力を持ち、閃きを持たなければなりません。自分が変わらなくても周りの環境は時間と共にどんどん変化しています。

私たちの所属する単一クラブの出来事も、ゾーン・リジョン・地区・複合地区から第 5 会則地域(東洋東南アジア)・国際協会本部(理事会)へと繋がっていきます。もちろん、ライオンズクラブは組織なので私たちの単一クラブの動きが地域において好ましい事であっても国際協会全体においては馴染まない事が出来て来てしまう双方向的な矛盾、しかしこの一つひとつの事を変えて行く場所に参加する事が出来れば、地域また日本全体の方向性にも、ふるさとの文化をバックボーンに思考し力を発揮する事が出来ます。

私たちのライオンズクラブ国際協会は世界的にも最も大きな奉仕団体であり世界中の人々からニーズもますます増えると共に内容そのものに変化も起こっています。このニーズに応えるためには、もちろん会員の増強や今までにないスキルを持った会員の招聘に力を入れなければなりません。幸いにもライオンズクラブ国際協会 山田實紘 元国際会長が提唱された家族会員の制度を活用することが出来、私の所属する 333-E 地区は 2017-2018 年度 会員協力の下+460 名

の純増を達成する事が出来ました。人の心に火をつけるには私自身の心が燃えていなければなりません。

そして LCIF です。まさしくライオンズクラブ国際協会と両輪となり進んで行かなければなりません。いま世界はこれまでになかった自然災害や政情不安定等による飢餓の問題など枚挙にいとまがなく年々事例も増えています。

この日本においても近年、東北大震災に始まりこの 7 月に起こった西日本豪雨災害についてはまだ終息しておりませんが、日本だけでもたくさんの地域で災害が発生し、その重大な災害へ LCIF の支援があります。

人的支援については、もちろん被災された方達とライオンズクラブや地域行政等がスクラムを組み取り組んでいます。この活動を今後も素晴らしいものとし継続して行くには、もちろん資金も必要です。

LCIF も 50 周年を迎えるに当たり今期の「100 (ワンハンドレッド) キャンペーン」等に強く協力をしなければなりません。もちろん日本国内の会員へ協力要請を発信する事は重要ですが、時には第 5 会則地域の友人と共にスクラムを組んで当らなければとを考えます。

所信としては、まだまだたくさんの事を考えますが、大切な役割として国際理事の職務としては国際協会本部と日本を繋ぎ、日本の文化や想いをバックボーンに世界へ反映させて行く事、任期が終わってからも、国際協会や世界の仲間と培ったパイプを使い将来にわたり永く繋ぎ情報を発信して行かなければなりません。

とても魅力のある役割・役務であると同時に、時間的・肉体的にとっても沢山の事を背負う事になると思いますが 2019-2021 年度 国際理事へ立候補させて頂きたく、ここに関係各位皆様へ改めてお願い申し上げます。

We Serve